負傷者　十勝がワースト　532人、死者も４人　畜舎内や60代以上多く　昨年度の道内農作業事故

2021年９月25日

北海道農作業安全運動推進本部（札幌市）は、2020年度の道内の農作業事故発生状況をまとめた。十勝管内の事故死者数は４人（19年度比２人減）で、負傷者数は532人（同39人減）。道内14総合振興局・振興局別でみると、死者数は２番目に多く、負傷者数は最も多かった。

十勝の農作業死亡事故は①ビートの後拾いをしていた女性（当時53）がビートハーベスターのタイヤに巻き込まれた（芽室町）②ビートの葉切り作業中のトラクターが畑の脇の川に転落し、運転していた女性（当時72）がトラクターと地面の間に挟まれた（浦幌町）など、収穫繁忙期となる10月に２件発生した。このほか、５月には鹿追町で、８月には本別町で、それぞれ１人が死亡した。

死傷者を市町村別にみると、帯広市が70人で最多。士幌町と鹿追町各60人、芽室町53人、清水町49人と続いた。広尾町はゼロだった。

また、管内の負傷事故532人は、全道２番目のオホーツク管内（356人）を大きく上回った。農業就業者数が多いことが一因とみられる。農業就業者1,000人当たりの事故件数は39.7人。全道平均（26.2人）を上回った。14総合振興局・振興局管内では５番目に多い。

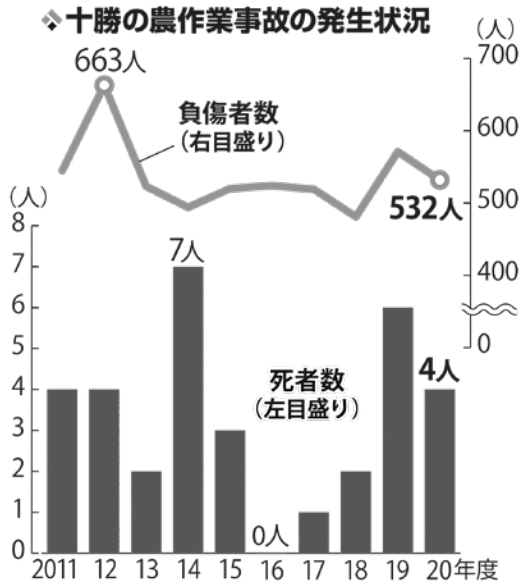
原因別では、搾乳中に蹴られる、家畜の移動中に転倒するなど、畜舎での事故が207人。転倒や転落、挟まれるなど、トラクターに関する事故の負傷は34人だった。

男女別では男性363人、女性は169人。年代別では60代以上が191人で全体の35.9％を占め、男女とも60代以上で負傷者が最も多かった。

◆「農繁期、余裕を持って」

全道の2020年度死傷者数は2,113人（死亡16人、負傷2,097人）で、19年度比8.0％減。死亡した人の約75％が高齢者となっており、道農作業安全運動推進本部では「機械の改良、作業方法の見直し、作業環境の改善など、高齢者の事故低減に向けた取り組みが急がれる」と指摘する。

その上で、「収穫の秋を迎えて、事故が発生しやすい時期」とも強調。事故の未然防止に向けて①機械への巻き込まれ防止のため、袖口が締まった衣服の着用②作業時は、急ぐ気持ちや焦りを抑え、余裕を持つこと③機械を運転する際は、作業を焦らず、周囲の安全を確認しながらエンジンを始動したり、機械を動かすこと④作業中は、周囲からの「声掛け」徹底⑤トラクターはスピードを落として運転、なども呼び掛けている。



ハウスや牛舎損壊　数百件規模のＪＡも　暴風停電

2021年12月３日

急速に発達した低気圧による猛烈な風に襲われた十勝管内では、農業関係にも被害が生じた。各ＪＡなどによると、「被害状況は調査中」とするが、ビニールハウスの倒壊や牛舎、倉庫などの建物被害を確認。件数は多いＪＡで、数百件規模に上るとみられる。

ＪＡ帯広かわにしでは、２日朝から職員が組合員らを訪問し、被害状況を確認。３日午前までに住宅被害24件、牛舎や倉庫などの建物被害297件、農業用ビニールハウスの倒壊108件を確認。農機具などの被害は「多数ある」とする。

組合員らは、2018年９月の胆振東部地震によるブラックアウト（全域停電）を教訓に、自家発電などの対応を進めている。酪農や加工用ジャガイモを抱える農家には、同ＪＡの発電機も貸し出し、最小限の影響にとどめた。

一方、倒壊したビニールハウスは、年明けからのビートの育苗に用いられるため、「早急に復旧を進めたい」とする。

ＪＡ帯広大正でも、３日午前までに、農業用ビニールハウスの倒壊や倉庫のシャッターの破損など、少なくと